

## 放射線科



### 【紹介】

放射線科は単純X線写真から最先端画像までの画像診断と画像誘導下で行う局所治療（インターベンショナルラジオロジー：IVR）、および放射線を使った侵襲性の少ないがん治療を行う診療科です。画像を扱う画像診断部門と放射線治療部門とから構成されます。

画像診断部門では、胃・十二指腸・大腸の検査やCT、MRI、骨密度測定等が行われています。CTではMDCT（多列検出器型CT）の登場により、今まで以上の速さで広範囲かつ詳細な画像が得られるようになり、臓器や血管の3D表示も可能となりました。

MRIは高磁場装置の導入により、脳梗塞の早期診断や血管描出に威力を発揮しています。

また、最近増加傾向にある乳癌についても、CR診断装置の導入により、早期発見率の向上に寄与しています。

これらの検査により得られた画像の一部はサーバー内に保存され、以前の検査との比較も容易になっています。

核医学部門では骨シンチ（主に転移性骨腫瘍の早期診断）などの画像診断に加え、脳疾患、心疾患等においてSPECT（Single Photon Emission CT：CTを応用した核医学診断装置）を利用した機能診断を行っています。

放射線治療部門では、4MVライナック装置で呼吸器癌、泌尿器科癌の他に転移性骨腫瘍、転移性脳腫瘍等の治療を行っています。

集学的治療として化学療法との併用も行っていきます。

